

特別研究部門

杉田収, 酒井禎子, 小林綾子, 水口陽子, 山田真衣, 永吉雅人, 城戸裕子, 平澤則子
新潟県立看護大学看護研究交流センター 特別研究部門

はじめに

新潟県立看護大学学長 渡邊 隆

私たちの大学は、2011年5月に創立10周年を迎え、学部卒業生561名、大学院修了生21名を送り出しています。学部は、優秀な看護師、保健師、助産師を育成し、大学院では、看護の臨床場での課題解決につながる研究に取り組んでおり、大学院修了者の中には、専門看護師教育課程（CNS）の修了者6名も含まれております。

看護大学は、学部・大学院のほかに看護研究交流センターが附置しており、このセンターは、大学の地域貢献をめざし、大学の教育・研究の成果を生かした様々な事業展開を行っています。先駆的学習支援部門、地域社会貢献部門、看護職学習支援部門、地域課題研究開発部門、特別研究部門が置かれ、それぞれの部門では公開講座や研究発表会などが行われ、地域社会との深いつながりをもって地域貢献につとめております。

「メディカルグリーンツーリズム」は、特別研究部門で取り組んでいる事業ですが、この事業のきっかけになったのは、2010年1月に上越で行われた移動知事室でした。多忙な知事のスケジュールの中になんとか10分ほどの面会時間をいただき、看護大学の現状や将来展望などをお話したところ、知事から「防災グリーンツーリズム」をやれないかといわれました。「グリーンツーリズム（GT）」のもともとの意味は、農山村・漁村地域において自然、文化、人々の交流を楽しむ滞在型の余暇活動を行うことです。この余暇活動に「健康と福祉」というkey wordを連携させた企画を提案しました。つまり、都会で生活している人たちが、上越地域の自然に触れ、人々と交流しながら健康な生活と安心できる福祉を考えるきっかけをつくる事業を考え、それをメディカルグリーンツーリズムとして提案したのです。この提案が、平成22年度の県農林水産部のGTとして予算化され活動がはじまりました。事業は、2010年4月から大学内の教職員を中心にはじまり、グリーンツーリズム滞在中に、健康な食事、自然環境の中での心身のリフレッシュなどを行い、自己の健康チェックができるプログラムをつくり、その実行シミュレーションをやることを事業の目的としたのです。そのまとめ役を杉田収特任教授にお願いし、学外からアドバイザーとして水原健二氏にも参加いただきました。翌年には、地域の企業の方々や、上越市、妙高市などの行政サイドの協力を得ることになりました。さらには、2015年開業予定の北陸新幹線の活用と上越地域活性化をめざす企画の一つとしても注目されるようになりました。こうして現在の「メディカルグリーンツーリズム」構想は、センターの特別研究部門に具体的に位置づけられることになり、ここにその2年間の成果をご報告するしだいです。

関係各位のご協力にあらためて感謝を申し上げますと共に、今後の展望を期待するものです。

これまでの振り返って

特任教授 杉田 収

はじめに

平成 22 年 4 月に渡邊学長よりメディカルグリーンツーリズム（メディカル GT）の事業立ち上げの指示を受け、看護研究交流センターに特別研究部門が新たに設けられた。部門長に杉田が任じられ、学内教職員 9 名のメンバーで事業を担うことになった。作業は上越地域出身の首都圏在住者で組織されている「ふるさと上越ネットワーク」（J ネット、611 名）会員に対するニーズ調査、及び上越市の介護施設の現状調査（72 施設）から始まり、部門メンバーによる上越地域の資源調査（48 ヶ所）を経てメディカル GT のメニュー作りに取り組んだ。

これらの調査の結果、上越地域の資源を生かしたモニターツアーを実施することとし、平成 22 年秋には作成されたツアー 3 案 ①健康チェックコース ②健康改善・リフレッシュコース ③介護準備・学習コースについて予備検証（シミュレーション）を行い、それをもとに平成 23 年 9 月にそれぞれのコースのモニターツアーを実施した。

モニターツアーには首都圏や大阪方面、上越市在住の方々など 22 名の参加者を得て、参加された感想をアンケートで集約し、ツアー内容を評価した。その評価の一部を後述する。詳細は「メディカルグリーンツーリズム報告書」にまとめられ、本学看護研究交流センターに保管されている。

1. メディカル GT の組織

事業は新潟県立看護大学の教職員で始められたが、本学以外の委員（外部委員）も平成 23 年 2 月から加わり、総勢 18 名で活動した。平成 23 年度は事業の進展に伴い、学内教員 2 名、学外委員 1 名を加え、さらに上越市との連携の必要性から上越市総合政策部新幹線・交通政策課新幹線まちづくり推進室からの 2 名がオブザーバーで加わり、その後妙高市企画政策課未来プロジェクトグループからの 2 名もオブザーバーで加わり、総勢 25 名になった。また関係する諸事務は看護研究交流センターの大越道子・高山篤子の事務局員（平成 22 年度）、吉田ふとし・星野史の事務局員（平成 23 年度）が担当した。

【大学関係者 13 名】

渡邊 隆学長、栗生田友子看護研究交流センター長、水原健二アドバイザー、杉田 収特任教授（当該部門長）、平澤則子教授、水口陽子准教授、酒井禎子准教授、城戸裕子准教授、永吉雅人助教、山田真衣助教、小林綾子助教、佐々木 稔事務局長、大林賢治係長

【大学以外の関係者（外部委員）8 名】

金子久司 上越ツーリスト代表取締役、高橋和則 上越市高齢者支援課副課長（平成 22 年度は市川重隆氏）、若山秀樹 上越観光コンベンション協会企画課長、齊京貴子 正善寺食のネットワーク、梅田みどり 料理研究家、遠間和広 温泉ソムリエ家元、敷根俊一 妙高自然アカデミー理事長、内田洋介 ウチダスポーツ

【オブザーバー 4 名】

吉田正典 上越市総合政策部新幹線・交通政策課新幹線まちづくり推進室室長、平原謙一 同主任、高橋正一 妙高市企画政策課未来プロジェクトグループ長、馬場慎太郎 同 スタッフ

2. 看護大学の企画らしいメディカル GT をめざして

メディカル GT 事業に看護大学の企画らしさをどのように盛り込むかについては、事業立ち上げの最初から議論された。

人間ドック中心の健康チェックコースと、介護施設見学・看護大学で行う介護関連体験を取り入れた介護準備・学習コースは、看護大学の企画らしさを入れることができた。一方健康改善・リフレッシュコースの内容は「運動・温泉・食」であり、森林セラピー基地での運動前後の心身のリラックス度を科学的に測定する提案が出された。この提案に対してリフレッシュのために参加した人に、研究のための「心身の負荷」が許されるものか議論になった。議論の末に、応募者の事前了解を得たうえで、必要最低限の範囲で唾液アミラーゼの活性測定と POMS (Profile of Mood States) 短縮版を用いて心身の状態を調査することになった。従ってデータ量は少ないが、幸いなことにこの測定・調査から興味深い結果が得られた。

また健康チェックコースと健康改善・リフレッシュコースの参加者には「健康パンフレット」の小冊子を、介護準備・学習コース参加者には「食と介護パンフレット」を配布し「お土産」として持ち帰ってもらった。これらのパンフレットは参加者には好評であった。メディカル GT 用に作成された各種パンフレットは「メディカルグリーンツーリズム報告書 資料編」に編纂され、モニターツアー評価と共に看護大学看護研究交流センターに保管されている。

3. メディカルグリーンツーリズムモニターツアーの実施

ここはモニターツアー実施報告の概略で、各コース担当者の詳細な報告は後に続く。

1) 健康チェックコース

①コース内容

新潟労災病院での人間ドック、春日山・謙信公観光、桑取温泉湯ったり村宿泊

②実施日

平成 23 年 9 月 6 日 (火) ・ 7 日 (水)

③参加者概要 (募集は 10 名)

参加者数：1 名

年代・男女別：60 歳代，男性

紹介者：新潟県立看護大学教員

居住地：千葉県

④参加者の評価抜粋 (数値は人数)

	満足	やや満足	何とも言えない	やや不満足	不満足
人間ドック	1	0	0	0	0
観光	1	0	0	0	0
湯ったり村宿泊	1	0	0	0	0

⑤特記事項

○人間ドックの独自の内容 (基本検査を圧縮して料金は半分以下、人間ドック認定医による丁寧な診察と健康講話) を伝える PR 不足があった

○ドック担当の新潟労災病院々長の談話「参加者が 0 人でも 1 人でも今後につなげて欲しい」

2) 健康改善・リフレッシュコース

①コース内容

森林セラピー・ノルディックウォーキング, 温泉ソムリエの講話(赤倉温泉宿泊),
野菜ソムリエ指導の料理体験(正善寺工房)

②実施日

平成23年9月21日(火)・22日(水)

③参加者概要(募集は10名)

参加者数: 9名

年代: 60歳代6名, 70歳代1名, 80歳代2名

男女: 男性3名, 女性6名,

紹介: 看護大教員からの紹介8名, 上越タイムスの記事を見た上越市民1名

居住地: 大阪2名, 長野2名, 埼玉・千葉・神戸・仙台・上越の各1名

④参加者の評価抜粋(数値は人数)

	満足	やや満足	何とも言えない	やや不満足	不満足
森林歩き(不参加1)	5	3	0	0	0
上越野菜料理体験	7	2	0	0	0
温泉ソムリエの話	6	3	0	0	0
宿泊先	3	5	1	0	0
健康パンフレット	7	2	0	0	0

⑤特記事項

○宿泊先の要改善意見に「雨の音が大きかった」

○アンケートで参加者9名中7名が再度このコースに参加したいと表明

3) 介護準備・学習コース

①コース内容

介護施設見学(サンクス高田・自在館, ケアホームあいびす, 癒しの家「池の平」),
料亭宇喜世・長養館の昼食, 親鸞聖人ゆかりの地巡り観光, 看護大での上越市の
福祉の現状と「食」の工夫体験

②実施日

平成23年9月28日(水)・29日(木)

③参加者概要(募集は10名)

参加者数: 12名

年代: 50歳代1名, 60歳代4名, 70歳代7名

男女: 男性2名, 女性10名,

紹介: 看護大教員からの紹介12名

居住地: 東京2名, 妙高3名, 上越7名

④参加者の評価抜粋（数値は人数）

	満足	やや満足	何とも言えない	やや不満足	不満足
介護施設見学	9	3	0	0	0
福祉の現状（無記入2）	3	2	3	2	0
食工夫体験（無記入1）	8	3	0	0	0
宇喜世の昼食	12	0	0	0	0
長養館の昼食	12	0	0	0	0
親鸞聖人観光	8	3	0	1	0
宿泊先（赤倉ホテル）	2	6	1	1	2

⑤特記事項

- 福祉の現状の話は「自分がお世話になる時は、どうなるのかが分からなかった」
- 親鸞聖人観光は「足が悪いので階段や歩くことが大変だった」
- 宿泊先は「トイレが狭く、また洗浄シャワーが機能しなかった」
- アンケートで参加者 12 名中 6 名が再度このコースに参加したいと表明

4. メディカル GT 事業を通して私たちが学んだこと

上越地域出身者の J ネット会員にニーズ調査を実施した。そこでツアー案内容について尋ねたところ以下の回答が得られた。

- ① 人間ドックなどの健康診断を行う『健康チェック』コース 156名(26.0%)
- ② 温泉やリラクゼーションを主とした『リフレッシュ体験』コース 125名(20.9%)
- ③ ウォーキングなどの『健康づくりプログラム』コース 114名(19.0%)
- ④ 高血圧、糖尿病、肥満改善のための『健康改善プログラム』コース 85名(14.2%)
- ⑤ 栄養指導を含む健康な食生活に関する『健康食体験』コース 61名(10.2%)
- ⑥ 福祉施設の状況などを実際に見聞きする『介護準備』コース 58名(9.7%)

この回答結果を踏まえて前述のモニターツアー3 コースを組み、前述の J ネット会員を始め、「表参道・新潟館 N'ESPACE」、新潟県と看護大学のホームページでモニターツアーの募集広報を行った。しかし残念ながら応募者は 1 名も無く、急遽地元上越地域を含む広域募集に切り替えた。この募集結果から首都圏を対象とした広報には大いに限界を感じた。しかし J ネット会員に対するニーズ調査からは、看護大学として考えねばならない幾つかの重要な知見が得られた。①既に 1 人暮らしの方が 12%存在する ②上越へ年に 1 度以上来る人は 72%である ③自分の健康に 94%の人は関心がある ④会員の 21%には上越に親がいる ⑤その親の 81%が 80 歳以上である ⑥上越の親の介護は、親も子も上越を希望している などであった。

上越市の高齢者用施設に対するアンケートによる調査は、主に「介護準備学習コース」のために行ったものであるが、他の有用情報として「貴施設・ホームの現在の入居状況は満室、或いはほぼ満室ですか」の回答は「はい 45 施設」「いいえ 4 施設」であった。また「満室、或いはほぼ満室の場合、新たな入居者の受け入れは例年どの程度ですか」の問には「1 年

間に 1～3 名 22 施設, 4～6 名 6 施設, 10～20 名 10 施設, それ以上 6 施設」の回答であった。さらに入居費用について「貴施設の必要入居費用は月平均(及び居室タイプの料金幅は)どの程度でしょうか」との間には ①特養: 減免措置があり 0 円/月の方もいるが, 月平均 4.2 万円から 14 万円 ②保健施設: 介護度別費用であるが 10 万円から 17 万円 ③ケアハウス: 7.5 万円から 16 万円 ④グループホーム: 8.3 万円から 16 万円 ⑤(介護付)有料老人ホーム: 15 万円から 21 万円(入居一時金上乗せは別)の回答であった。

上越地域の資源調査とコースシミュレーション, さらにモニターツアーを通して以下のことを学ぶことができた。

- 上越市の大切な観光資源として, 謙信(春日山・林泉寺)と親鸞(居多神社・五智国分寺・国府別院・浄興寺・ぬしんの里)が確認できたこと
- 上越市の観光施設には階段があり足腰の弱った高齢者には歓迎されないこと, 同様に車椅子使用者が宿泊できる施設は極めて限られていることが実感できたこと
- 上越地域を支える観光ガイドを含む多くの観光関係者, 温泉ソムリエ, 野菜ソムリエ, 森林セラピストなどの存在を知り得たこと
- 低価格で自分に合った人間ドックと人間ドック認定医の存在を知ったこと
- 高級料亭での高齢者対応膳の試食から, これからの食のあり方が考えられたこと
- 心身のリラックス度を測定する手段として, POMS 調査と唾液アミラーゼの活性測定が有用であること

私たちが学んだ事は, まだ部分的で浅いものであるが, これを機会に今後の看護大学の地域貢献, 或いは看護研究につなげていけるものと考えている。

メディカルグリーンツーリズムモニターツアー
健康チェックコース実施報告

酒井禎子, 小林綾子

I. はじめに

メディカルの要素と上越地域の資源を組み合わせた健康チェックコースのコンセプトは、人間ドックを主目的としながらも、「人間ドックに『温泉旅行』を兼ねて、ゆったりすごしていただくこと」、そして「個人のニーズに柔軟にあわせた『〇〇さんのための人間ドック』を提供すること」とした。

平成23年9月5日(月)～6日(火)および6日(火)～7日(水)の1泊2日の2コースを設定して参加者を募集した結果、9月6日(火)～7日(水)のコースのみ1名の参加希望者があり、モニターツアーを実施した。

II. 参加者概要

参加者は、看護大学教員から紹介された、千葉県在住の60代男性1名であった。

III. スケジュール

1泊2日のスケジュールの概要は表1のとおりであった。

表1 健康チェックコース スケジュール

1日目		2日目	
時間	スケジュール	時間	スケジュール
11:42	直江津駅集合	7:45	宿泊先出発(朝食なし)
12:00～13:00	富寿司で昼食	8:20～	新潟労災病院到着 人間ドック開始
13:35～15:00	春日山城跡見学	11:50	人間ドック終了
15:05～15:40	埋蔵文化財センター 「謙信公と春日山城展」見学	12:00～12:30	昼食・健康講座
16:10	くわどり湯ったり村到着	12:30	健康パンフレット贈呈 アンケート記載
		13:00	終了

1日目は、直江津駅到着後富寿司で昼食、その後埋蔵文化財センターで観光ボランティアと合流し、春日山城跡を85分程度見学した。再び埋蔵文化財センターに戻り、開催中の「謙信公と春日山城展」を休憩やショッピングを兼ねて35分程度見学、16:10に宿泊場所であるくわどり湯ったり村に到着した。

2日目のプログラムは、8:20より新潟労災病院での人間ドックを開始し、昼食時間をはさんで健康講座を実施した。当初は、その後参加者の希望に応じてオプション検査を行い、終了した参加者から随時解散とする予定であった。しかし、参加者が選択した検査項目では午

前中で人間ドックが終了したため、昼食と健康講座の後、担当者からの健康パンフレット贈呈を経て 13:00 にツアーが終了となった。

IV. ツアーの概要

天気は晴れ、気温 26℃程度であった。移動手段はタクシーを使用した。

1. 1日目

1) 富寿司での昼食

和室個室にて食事をし、メニューは「地魚にぎりランチ」であった。寿司ネタの説明がメモについており、それらを見ながら地元の味を楽しんでいた。

2) 春日山城跡見学 (図 1, 2)

春日山城跡では、途中までタクシーにてあがり、その後は徒歩での散策を行った。観光ボランティアの丁寧な説明を聴きながら全体をまわり、予定より 25 分延長し計 85 分の散策となった。山道が多く、普段歩きなれていない人や高齢者にはややきつい行程であると思われたが、参加者は普段歩きなれているとのことであり、特に苦痛は感じなかったとの感想であった。参加者アンケートの「ツアーに参加してよかったところ」の自由記述においても、『春日山に登れたこと』との回答があり、県外者には喜ばれる観光場所であったと思われる。



図 1 春日山城跡での見学 (1)



図 2 春日山城跡での見学 (2)

3) 「謙信公と春日山城展」見学 (図 3)

「謙信公と春日山城展」は、上杉謙信や春日山城に関する展示が充実し、クイズや着物を着ての写真撮影などが楽しめる場所であった。なお、11月27日(日)で展示は終了している。

4) くわどり湯ったり村 (図 4)

宿泊場所であるくわどり湯ったり村は、上越市内で比較的新潟労災病院の近くに位置する温泉施設であること、周囲は自然にあふれる環境で、人間ドックの前日にリラックスしてすごせる場所であることなどを考慮し、選択した。部屋・浴室ともに清潔で過ごしやすく、露

天風呂も楽しめる。夕食は地元の食材を生かした会席料理であった。参加者アンケートでも、宿泊場所は「満足」であるとの回答であった。

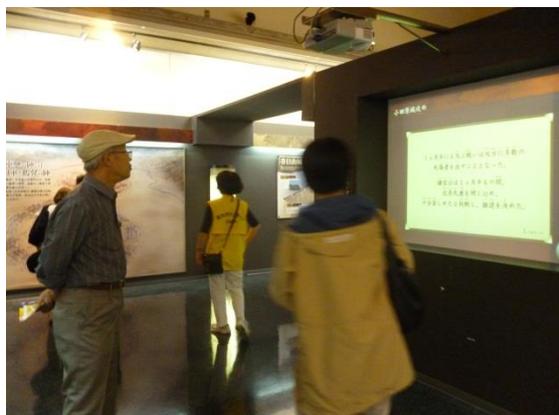


図3 「謙信公と春日山城展」見学



図4 くわどり湯ったり村での夕食

2. 2日目

1) 新潟労災病院での人間ドック (図5, 図6)

今回、個人のニーズにあわせた人間ドックのコンセプトを実現するため、新潟労災病院の関係者の皆様のご協力を得て、個人の希望にあわせて柔軟に項目を選びながら安価で人間ドックが行えるようプランを設定した。参加者は、血液検査や身体計測、血圧や心電図などの生理検査、胸部レントゲンや腹部超音波などを含む基本検査の他、希望に応じて10項目のオプション検査を選んで検査を行うことができる。どのようなニーズをもつ人がどのような検査項目を選ぶとよいのかがわかりやすいよう、オプション検査を「がん検診コース」「脳血管コース」「肥満コース」の3つに分けて提示した。

人間ドックには一般受診者も含まれていたが、検査の待ち時間はほとんどなくスムーズにまわることができたと参加者に好評であった。11時から行われた最終診察では、人間ドック認定医である松原要一院長の診察を受け、30分間もの時間をかけ、ゆっくりと検査結果の説明や生活指導が行われた。



図5 人間ドックでの検査



図6 松原院長による検査結果の説明

2) 健康講座 (図 7)

健康講座は、今回は 1 名の参加者であったこと、また最終診察で松原院長より丁寧な生活指導が行われたこともあり、院内食堂にて昼食を食べながら 30 分程度の懇談となった。参加者には、松原院長が作成した健康に関する資料も提供された。このように、新潟労災病院では、人間ドック・健康講座とも参加者の個別性を尊重したプログラムとなるよう配慮され、参加者アンケートでも満足が得られていた。



図 7 昼食を食べながらの健康講座

3) 健康パンフレット

最後に、参加者には健康パンフレットを贈呈した。健康チェックコースの健康パンフレットは、「検査結果が気になるときに」「生活習慣に関連の深い主な病気について」の 2 部構成とした。「検査結果が気になるときに」では、血糖に関する検査値が高いとき、血圧が高いとき、など、人間ドックの結果を見ながら、参加者自身が今後どのように生活を心がけたらよいかのわかるような内容で構成した。「生活習慣に関連の深い主な病気について」では、これらの検査結果と関連が深い生活習慣病について、病気の特徴、症状、診断のための主な検査、そして治療に関する説明を加えた。また、健康改善・リフレッシュコース用の食事・運動・ストレスに関するパンフレットをこの後に加え、より健康的な生活を行うための工夫について理解が得られるような内容とした。

V. おわりに

参加者アンケートでは、1泊2日の日程の中で『ゆったりすごすことができた』との回答があり、全体として十分余裕をもった時間スケジュールであったと思われる。

ただし、健康チェックコースに再度参加したいと思うかとの問いに対しては『何ともいえない』とのことであり、『人間ドックだけで遠方から人を呼ぶことは厳しいのではないか。健康改善リフレッシュコースのようなものを発展させていったらどうか』との意見があった。参加申し込みが 1 名にとどまったこともあわせて、今後のツアーの展開について課題となった。

メディカルグリーンツーリズムモニターツアー
健康改善・リフレッシュコース介護準備・学習コース実施報告

水口陽子, 山田真衣

I. はじめに

健康改善・リフレッシュコースは、「上越・妙高の自然環境を活かした心身リフレッシュと健康的な生活作りのためのプラン」として、地元の健康作りのエキスパートの力を活かしたコースとして設計した。アピールポイントは次の3つで、運動と温泉、調理体験を主軸とした。

1. 森林セラピーロードにおける森林セラピストの案内による散策、あるいは指導者によるノルディックウォーキングなどの体験により、豊かな自然環境の中で、癒しやリフレッシュの運動体験ができること。
2. 上越野菜などの地元の食材を活かした調理体験をして、健康作りの基本となる「食」について関心が持てること。
3. 温泉ソムリエのいる遠間旅館にて、温泉講座で知識を深めながら、赤倉温泉 100%源泉掛け流しの湯でゆったりと過ごすことができること。

そして、参加者を募った後、モニターツアーを平成 23 年 9 月 21 日（水）から 22 日（木）まで実施した。ここではその概要を報告する。

II. 参加者概要

参加者は、60 歳代 6 名、70 歳代 1 名、80 歳代 2 名の合計 9 名であった。男女別では、男性 3 名、女性 6 名で、居住地は、大阪 2 名、長野 2 名、埼玉・千葉・神戸・仙台・上越の各 1 名であった。

III. ツアー実施概要

1. 1 日目

1) 集合から昼食（図 1, 図 2）

予定時間に JR 直江津駅南口に全員集合 10 時 30 分に出発した。マイクロバスで笹ヶ峰に予定時間の 12 時に到着。現地に行くまでは小雨と霧であった。笹ヶ峰グリーンハウスでは雨は



図 1 笹ヶ峰グリーンハウスでの昼食



図 2 笹ヶ峰高原の様子

降っていたが霧が晴れ、牧場の牛を見ることができた。

笹ヶ峰グリーンハウスの食事は笹ずし定食（笹寿司と野菜料理など）で、ボリュームがあり、「おいしかった」の声あり。

2) 笹ヶ峰高原の森林セラピーとノルディックウォーキング（図3, 図4, 図5, 図6）

8名が参加（1名はツアーの数日前から足の調子が悪くグリーンハウスで待機）。雨の中であったが、雨ガッパを着て実施できた。

森林セラピーは、4名が参加、森林セラピストの敷根氏の指導により、まず、木に触れながらじっと目を閉じ、日常とは違う森の中へ出発する準備をした。途中、雨の音・風の音を聴く、植物に触れるなど、徐々に五感を使いながら、自然を感じる体験を進めていった。途中、横になってリラックスする場所は、地面ではなく、清水ヶ池の近くの休憩所で行った。静かに瞑想したり、自生植物の説明を聞きながら歩いた。予定より10分ほど遅れて15時40分頃に終了した。参加者からは、「自然に触れ、いつもと違う体験ができた。よかった」などの声があった。



図3 森林セラピーの説明



図4 森林セラピーの実施

ノルディックウォーキングは予定通りツアー参加者4名と教員1名が参加した。このコースについては内田氏の指導で開始前に30分程度の予行があり、歩行に慣れてからウォーキング開始となり、距離も1.5キロから2.5キロに延長された。時間は予定通りに終了した。「指導者の説明が面白かった。歩いてよかった。楽しかった」の声があった。



図5 ノルディックウォーキングの実施



図6 ノルディックウォーキングのゴール

3) 温泉ソムリエのお話と入浴 (図7, 図8)

遠間旅館に予定より30分ほど遅れて16時40分に到着した。温泉ソムリエの遠間氏より、温泉入浴法などの話を40分間程していただく。参加者は、温泉に関するテキストを見ながら、熱心に聴いていた。「温泉の入り方など役に立つ話が聴けてよかった」等の感想があった。その後、夕食前に1名が入浴した。遠間旅館での夕食では改めて参加者の紹介も行い、和やかな雰囲気であった。ほとんどの参加者は夕食後に温泉に入ったが、数人から、「今日聴いた温泉の入り方をやってみた」という声があった。



図7 温泉ソムリエのお話



図8 遠間旅館での夕食

2. 2日目

朝食前に朝風呂に入った人が多かった。朝食をとり、予定通り8時40分に遠間旅館を出発した。予定通り、正善寺工房に9時40分に到着した。

1) 正善寺工房での野菜調理体験 (図9, 図10)

指導者の上越野菜の話とレシピの説明後、3テーブルに分かれて調理する。レシピを見て、うまく分担しながら、予定より早いペースで次々に料理ができていく。男性の参加者も、積極的に調理に参加していた。



図9 上越野菜を使った献立



図10 正善寺工房での調理体験

メニューは「焼きナスのかき玉あんかけ」「新ショウガの混ぜご飯」「オクラとミュウガのサラダ」「カボチャ白玉」の4品の予定であった。予定より早くできたので、指導者であ

り野菜ソムリエの資格を持つ梅田氏が急遽 1 品を追加された。参加者から、「美味しく、勉強になった」という感想がきかれた。

2) 健康パンフレット (図 11)

今回のモニターツアーで体験した内容を動機づけとし、今後の健康作りに活かしてもらうために、「食事について、運動について、ストレス軽減・リフレッシュについて」の健康パンフレットを看護大教員の担当者が作成し、参加者に配布した。「手作りによくできている、絵がたくさんあり、とても見やすい、家に帰ってからもまた見直したい」の感想がきかれた。

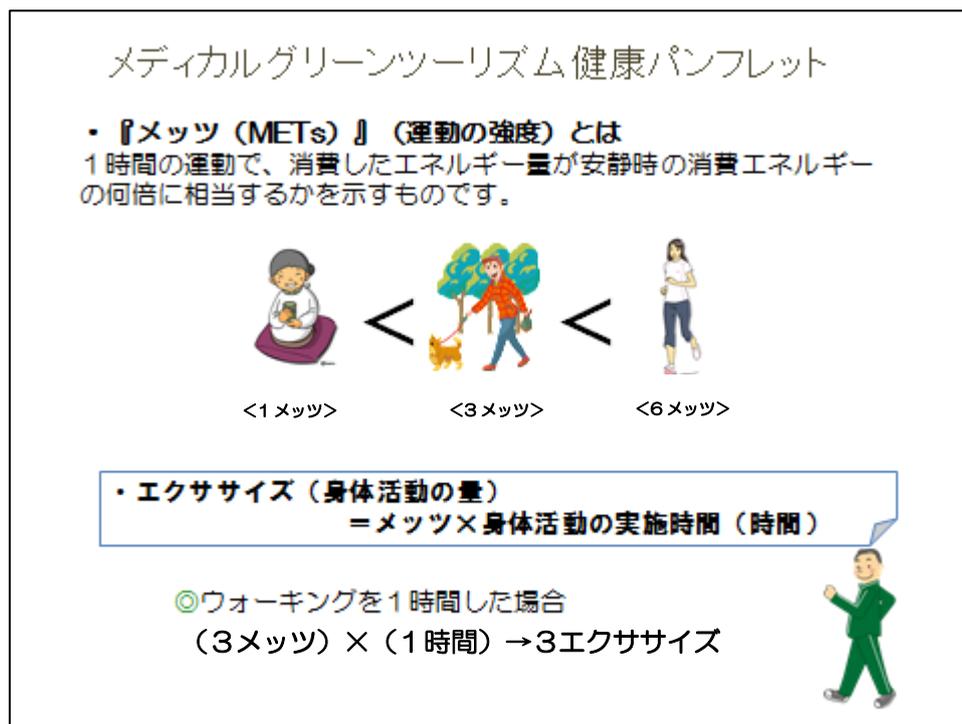


図 11 健康パンフレットの一例

3) 見送りまで

その後正善寺工房で買い物をし、アンケートも実施したが、予定より 40 分程早く終了したので、添乗員に連絡して工房でマイクロバスを待ち、14 時に出発した。

ツアー参加者の希望で、予定になかった看護大学の見学が入った。見学後、15 時頃に直江津駅へ向かった。直江津駅では、台風・大雨の影響で列車のダイヤが乱れていたが、遅れて到着した電車に乗車してもらい見送った。その他の方々は紹介教員が対応した。

IV. まとめ

今回のアンケートの回答では、ツアー内容は盛りだくさんであったが、各体験とも満足度は高かった。森林セラピー、ノルディックウォーキング、温泉ソムリエの話、野菜調理体験は、参加者全員が満足とやや満足の欄に解答した。また、教員が作成した「健康パンフレット」は、役に立つが 7 名、やや役に立つが 2 名であった。再度ツアーの機会があれば参加したいが 7 名、何とも言えないは 2 名であったことから、ねらいどおり、参加者に楽しんでもらえたものとする。今後の課題とブラッシュアップ案については別の項で報告する。

メディカルグリーンツーリズムモニターツアー

介護準備・学習コース実施報告

永吉雅人，城戸裕子，平澤則子

I. はじめに

介護準備・学習コースは、「上越の介護サービスの状況をふまえ、食を通じて介護と将来の生活像を感じるプラン」として、地域の施設を組み合わせることで新たな価値の創出を目指した他では見られない新規性の高いコースとして設計した。アピールポイントは次の5つで、介護施設見学と食の工夫体験、そして温泉と観光とした。

1. 上越地域の3種類の介護施設を見学，その状況を肌で感じることができること。
2. 大学で介護の中での「食」を考える時間を過ごし，食の工夫体験ができること。
3. 上越を代表する2つの料亭で，介護を感じる特別な昼食をとることができること。
4. 温泉ソムリエのいる赤倉ホテルにて，赤倉温泉100%源泉掛け流しの湯でゆったりと過ごすことができること。
5. 観光ガイド付で「親鸞聖人ゆかりの地」巡りができること。

そして，参加者を募った後，モニターツアーを平成23年9月28日（水）から29日（木）まで実施した。ここではその概要を報告する。

II. 参加者概要

参加者は，50歳代1名，60歳代4名，70歳代7名の合計12名であった。男女別では，男性2名，女性10名で，居住地は東京2名を除くと妙高3名，上越7名と上越地域での参加者が多かった。また，12名全員が看護大学教員からの紹介であった。

III. ツアー実施概要

1. 1日目

1) 住宅型有料老人ホーム「サンクス高田・自在館」（施設見学1）

JR直江津駅南口集合（10:30）を参加者の希望により看護大学（10:30）集合に急遽変更し，マイクロバスにて住宅型有料老人ホーム「サンクス高田・自在館」へ向かった。そこでは入居費用・選択できる食事・入居者状況などの説明があり（図1，2），介護が必要になった場合には同じ施設内の訪問介護サービスが受けられ，さらに介護付有料老人ホームに優先的に入居できるとのことであった。



図1 サンクス高田・自在館での説明



図2 サンクス高田・自在館の見学

2) 料亭「宇喜世」にて昼食

1階で椅子式にて昼食を頂いた(図3, 4)。ここでは、豪華な昼食を楽しみにツアーを申し込んだ旨の聲が聞かれた。予定では「宇喜世」に80分間の滞在予定であったが予定を繰り上げて60分間となった。



図3 料亭「宇喜世」での食事



図4 料亭「宇喜世」の昼食内容

3) 小規模多機能型居宅介護施設「ケアホームあいびす」(施設見学2)

小規模多機能型居宅介護施設とは何か、そして、ここでは可能な限り自宅での介護を支えるために「通い」「訪問」「泊まり」のサービスを行っているとの説明を受けた(図5)。



図5 ケアホーム「あいびす」での説明

見学後マイクロバスで癒しの家「池の平」へ向かった。

4) グループホーム癒しの家「池の平」(施設見学3)

この施設は立地場所が温泉地であることから、入居者やその家族がいつでも温泉入浴ができるようになっていた(図6, 7)。



図6 癒しの家「池の平」の見学



図7 癒しの家「池の平」での説明

入居料が高い施設から順に見学したためか、入居費用に関する質問が多くあった。また、多くの参加者から「このような複数の施設が見学できて、大変貴重な体験をさせてもらった」というような、満足の声が聞かれた。

5) 赤倉ホテル

赤倉ホテルに到着すると、恒例のホテル手作りの「おはぎ」で歓迎され（図 8），ゆったりとした時間を過ごした（図 9）。



図 8 赤倉ホテルのおはぎ



図 9 赤倉ホテルでの夕食内容

しかし参加者から「部屋から温泉までの距離が長かった」「シャワートイレが利用できなかった」等、多くの不満が聞かれた。チェックアウト忘れの参加者がいた。

2. 2日目

1) 大学での講義・体験

赤倉ホテルを 8:00 に出発して看護大学へ向かった。9:00 より本学の精神・老年・地域看護学実習室にて上越市高齢者支援課の高橋氏から介護保険関係の話があった。介護認定の質問が多かったです。話は少々難しい感じがした。

続いて本学の城戸准教授の「食」に関する話（図 10）があり、最後にスポーツドリンクに「とろみ剤」を入れて、味がどのように変わるかの実験があった。とろみの工夫をする時間が少し短かったが、イラストの多い資料が好評であった。



図 10 城戸准教授の講義

2) 「長養館」にて介護食付の昼食

「長養館」に 12:00 少し過ぎて到着、事前をお願いしていた通り 1 階の椅子席での食事であった（図 11, 12）。しかし用意された椅子と食台の高さのバランスが悪く食べにくい感があった。長養館では、老舗料亭の介護食を用意してもらい、料理長から具体的な工夫の説明を受けた（図 13, 14）。介護食は参加者で試食した。長養館での滞在は 90 分間と予定していたが、実際には 70 分間であった。



図 11 料亭「長養館」での食事



図 12 料亭「長養館」の一般昼食内容



図 13 長養館料理長による介護食の説明



図 14 長養館の介護食内容

3) 親鸞聖人ゆかりの地巡り

長養館にて岩嶋観光ガイドと合流ののち、親鸞聖人ゆかりの地巡りの観光を行った。海からの聖人上陸の地（居多ヶ浜）（図 15）からはじまり、五智国分寺、居多神社、国府別院を巡り、最後に浄興寺（図 16）を見学した。ガイドの丁寧な説明と楽しいオシャベリは好評であった。浄興寺の説明の後 15:40 に観光が終了となり、そこでガイドと別れた。天気は、（若干暑いくらいの）晴天であった。



図 15 観光ガイドによる居多ヶ浜の説明



図 16 観光ガイドによる浄興寺の説明

参加者が高齢者であったため、かなりの距離を歩くことはハードであったと思われる。バスに残ったり、ベンチに座ったりするなどして、個々のペースで見学をしていた。上越市の

参加者が多かったことも、階段のあるところの観光が省略された原因と考えられた。間隔の狭い階段が多くあり、杖を利用されている方には大変厳しい観光であった。

3. その他

城戸准教授による、バスガイド（図 17）が好評であった。短い時間ではあったものの、ミニ授業や頭の体操、観光ガイドなど盛りだくさんであった。



図 17 城戸准教授によるバスガイド

IV. おわりに

「介護施設を見学する」というツアーは、「とても満足」の声が多かった。参加者には「近い将来を想像することによって、現時点の行動を具体的に考えている」雰囲気、感想や質問から多くうかがえた。

また、モニターツアー後のアンケートには、12人中6名が「再度参加したい」とのことであった。「再度参加したい」と表明された6名の参加者は、自分の今後を考えているため、さらに詳しく学習したい方々であると考えられる。

高齢者の参加者が多かったこともあるが、下記の点が課題として残った。

1. 車椅子の準備（今回はツアー当日の準備）
2. バスのステップ（踏み台）を用意
3. 食事の場所は1階（今回は、たまたま1階であった）
4. 宿泊場所の検討・吟味

メディカルグリーンツーリズムの今後について

事務局長 佐々木 稔

1. 事業実施の経緯

平成22年1月に上越で開催された移動知事室の際、泉田知事から渡邊学長に、防災グリーンツーリズムの一つとして、医療・福祉に関するものを看護大学でできないかと打診があった。

急遽、平成22年度のグリーンツーリズム（農林水産部）予算で予算化（150万円）され、アンケート調査、内容の検討、シミュレーションの実施等を行った。

平成23年度も同様に150万円の予算が付き、9月に3コースのモニターツアーを実施した。

2. モニターツアーの内容

内容については省略するが、各コースとも1人あたり2万円程度の補助を行い、各コースそれぞれに異なる評価があった。

3. 今後についての考え方

北陸新幹線の開業が2015年春に予定されており、上越地域の行政機関や各団体を構成員とした「新幹線まちづくり推進上越広域連携会議」が結成され、開業に向けてのさまざまな取組が検討されているところである。

メディカルグリーンツーリズムは、首都圏等を対象に誘客するアイデアとして、「連携会議」でも注目されており、その内容がJRやJTBなどの旅行エージェントに認められた場合は、本格的に商品化され、上越地域への誘客に大いに貢献する可能性がある。

商品化の前段階として、専門家による現地調査が行われるのは、早くても2013年度と考えられることから、評価を得た内容については、少なくとももう1回モニターツアーを行って、内容をブラッシュアップする必要があるものとする。

4. 平成24年度の案

1) 健康チェックコース

今年度の実績からみて、誘客が見込めないことから、廃止する。

2) 健康改善リフレッシュコース

参加者9名のうち、また参加したいとの意向が7名からあり、コースとしては評価されたものと考えられる。

北陸新幹線開業時のツアー候補として、「連携会議」及び妙高市との連携のもとで、モニターツアーを今一度開催することとしたい。

誘客対象は、妙高市と友好関係にある北名古屋市の住民とし、定員30名、2泊3日のバスツアーに改編して実施するよう協議しているところである。

参加者からのアンケートをもとに、ツアー内容の評価を得るとともに、できれば「連携会議」に参加しているJRやJTB出身者からも参加していただき、専門家としての評価を得ることとしたい。

3) 介護準備学習コース

参加者12名のうち、また参加したいとの意向が半数の6名であった。十分見学したとの意向ではないかと思われる。事前の会議でも、地元を対象として実施してほしいとの声があったことから、看護研究交流センターと上越ツーリストの連携事業として、地元を対象に、日帰り旅行として、継続実施していくこととしたい。

なお、2)、3)については、過去2年間のような別枠予算は要求せず、「連携会議」、妙高市との連携のもと大学の持つ既存予算の中で執行していくこととする。



介護準備・学習コース2日目，上越市の介護保険制度を聴く参加者
(看護大学実習室)

メディカルグリーンツーリズム
健康改善・リフレッシュコース ブラッシュアップ案について

山田真衣 水口陽子

1. はじめに

上越地域の行政機関や各団体を構成員とした「新幹線まちづくり推進上越広域連携会議」が結成され、北陸新幹線開業に向けて様々な取組が検討されている。その中で、メディカルグリーンツーリズムが行っている、健康改善・リフレッシュコースについて興味を示していただいた。今回、「新幹線まちづくり推進上越広域連携会議」と妙高市との連携のもとで、健康改善・リフレッシュコースをブラッシュアップし、もう一度モニターツアーを行う。それにより、内容が商品化できるのであれば、上越地域への集客に貢献できると考える。

また、妙高市より「運動」「温泉」「旅行」を行うことでの、リラックス効果についてのエビデンスを明らかにしてほしいとの依頼があった。これらを明らかにすることは、今後の事業に生かせることができ、地域貢献に役立つとともに、研究的視点からの検証は大学の役割として重要であると考えます。

2. モニターツアー実施の振り返りについて

平成23年9月21日（水）から22日（木）に行われた、モニターツアー参加者からの意見と、実施担当者の振り返りを元にツアーの問題点について整理し、今後のツアー計画に反映できるように検討を行った。

今回のモニターツアーでは、9項目の問題点（表1）が抽出された。問題点の内容を整理すると、①モニター参加者のツアー参加準備での問題点、②旅行スケジュールの時間調整、③ツアー内容の充実の3点であった。

この問題点を解消しながら、「運動」「温泉」「食」の3つを軸に再検討することで、より良い実現可能なツアー計画ができると考えている。

表1. モニターツアーでの問題点

- モニターツアー参加者の確保
- 集合場所
- マイカーの駐車場所と駐車代金
- 山歩きの時間の少なさ(3時間以上の確保)
- 移動距離と時間配分
- 旅館出発時間の検討
- 露天風呂希望に関する実現性
- 20名以上が料理体験できる場の確保
- おみやげを購入する場の確保

3. ブラッシュアッププランの内容について

1) 参加者について

モニターツアーの参加者の確保については難航した。そのため次回の参加者の確保については、妙高市の未来プロジェクトグループの協力を受け、妙高市と提携を結んでいる北名古屋市の住民に向けて募集を行う。集合場所については、北名古屋市内とし、マイクロバスで移動していただく。

2) 旅行スケジュールの時間調整について

今回のブラッシュアッププランのモニターツアー参加者は、北名古屋からの参加となる。北名古屋から妙高市までは、マイクロバスで約6時間かかるため、移動時間を考慮して2

泊3日でのツアーに修正することとした。

前回のモニターツアーでは、1日目に【運動体験】と【温泉ソムリエ講座】を行ったが、今回のブラッシュアップ案では1日目に【温泉ソムリエ講座】、2日目に【運動体験】を行うこととし、無理のないスケジュールを計画している。

また、3日目は帰宅のための移動距離が長い朝の出発時間を遅めに設定するとともに、【健康食づくり体験】を行う会場も、妙高市市内で行う場所を確保し時間調整を行った。

3) ツアー内容の充実について

前回のモニターツアー参加者からの、アンケート結果より露天風呂や野天風呂の希望が多く挙がった。【温泉ソムリエ講座】の講習を受けた後、さまざまな入浴を体験したいという参加者からの希望と考えた。そこでブラッシュアッププランでは、燕温泉での入浴体験をプランに追加する。燕温泉は、弘法大師発見の湯として古くから栄えた温泉場であり、岩石に囲まれた野趣あふれる「黄金の湯」と乳白色の「河原の湯」がある。1回の旅行で、赤倉温泉と燕温泉を体験できることから、ツアーとして充実するのではないかと考える。

4. モニターツアースケジュールとブラッシュアッププランスケジュールの比較

1) 1日目の概要

1日目 (9/21) 旧案

時間	スケジュール
10:30	JR直江津駅集合 マイクロバスに乗車 希望者に万歩計の貸与
12:00	笹ヶ峰グリーンハウス到着 昼食・休息
12:45	《POMS・唾液検査》
13:15	【運動体験】 ・森林セラピー ・ノルディックウォーキング どちらかを選択
15:30	《POMS・唾液検査》
15:45	
15:50	笹ヶ峰グリーンハウス出発
16:10	遠間旅館到着 (赤倉温泉)
16:30	【温泉ソムリエ講座】
17:20	講義終了
17:30	夕食まで自由 《POMS・唾液検査》 温泉入浴 《POMS・唾液検査》
18:30	夕食 以降フリータイム

1日目 ブラッシュアップ案

時間	スケジュール
8:30	北名古屋集合 マイクロバスに乗車・出発
14:30	妙高市到着 「とまと」で休息・時間調整
15:20	遠間旅館到着 (赤倉温泉)
15:30	講義の会場到着 モニターツアーの説明 健康パンフレットの配布
16:00	【温泉ソムリエ講座】
17:00	講義終了 講義を行った会場で連絡 お部屋の部屋割り確認 お部屋の鍵のお渡し 各旅館・各部屋へ移動
17:30	夕食まで自由 《POMS・唾液検査・血圧測定》 温泉入浴 《POMS 唾液検査・血圧測定》
19:00	夕食 以降フリータイム

1日目は、北名古屋市からの移動時間を考慮し、スケジュール内容は【温泉ソムリエ講座】のみとした。また、夕食前に入浴できるように夕食時間も30分遅く計画した。

2) 2日目の概要

1日目 (9/21) 旧案

時間	スケジュール
10:30	JR直江津駅集合 マイクロバスに乗車 希望者に万歩計の貸与
12:00	笹ヶ峰グリーンハウス到着 昼食・休息
12:45	《POMS・唾液検査》
13:15	【運動体験】 ・森林セラピー ・ノルディックウォーキング どちらかを選択
15:30	《POMS・唾液検査》
15:45	
15:50	笹ヶ峰グリーンハウス出発
16:10	遠間旅館到着 (赤倉温泉)
16:30	【温泉ソムリエ講座】
17:20	講義終了
17:30	夕食まで自由 《POMS・唾液検査》 温泉入浴 《POMS・唾液検査》
18:30	夕食 以降フリータイム

2日目 ブラッシュアップ

時間	スケジュール
7:30	朝食 (7:30より準備を整えていただく)
8:30	宿泊先出発
9:00	笹ヶ峰グリーンハウス到着 《POMS・唾液検査・血圧測定》
9:30	【運動体験】 ・森林セラピー ・ノルディックウォーキング どちらかを選択
12:30	運動体験終了
	《POMS・唾液検査・血圧測定》 検査終了した方から昼食 笹ヶ峰グリーンハウスで昼食 食後は集合時間までフリータイム
14:15	笹ヶ峰グリーンハウス集合
14:30	笹ヶ峰グリーンハウス出発
15:30	燕温泉 山の湯宿 針村屋到着 ・針村屋：野天風呂・展望風呂あり。 休憩所あり。 ・河原の湯：完全混浴 (徒歩 15分) ・黄金の湯：男女別 (徒歩 5分)
17:00	針村屋集合
17:15	燕温泉出発
17:45	赤倉温泉到着
19:00	夕食 これ以降フリータイム



燕温泉街



黄金の湯

2日目については、【運動体験】と【燕温泉の野天風呂】をスケジュールに組み込んだ。ブラッシュアッププランでは、【運動体験】を3時間確保することで、自然を心身共に十分満足できるのではないかと考える。また、前回のモニターツアー参加者からの希望で多かった、野天風呂体験についてもスケジュールに追加した。滞在時間は90分程度であるが、日没とともに入浴ができなくなるため、妥当と考えている。野外風呂や混浴風呂に抵抗がある参加者もいると思われるため、燕温泉での拠点地予定の針村屋には、日帰り風呂も開放していただく予定である。また、針村屋の日帰り風呂の解放は、雨天時でも燕温泉の湯に入れるという利点があり、天候による予定変更の必要がない。

3) 3日目の概要

2日目 (9/22) 旧案

時間	スケジュール
8:40	宿泊先出発
10:00	正善寺工房到着 上越野菜の【調理体験】
12:00	作った料理の試食
13:30	片づけ
14:00	アンケート調査用紙の記入
14:30	正善寺工房出発 バス内にて万歩計の回収
15:40	直江津駅到着・解散

3日目 ブラッシュアップ案

時間	スケジュール
8:00	朝食 (7:30より準備を整えていただく)
9:10	宿泊先出発
9:40	都市農村交流施設到着
10:00	【調理実習型体験】
11:30	昼食
12:30	後片付け アンケート調査用紙の記入 《POMS》
12:45	都市農村交流施設出発
13:30	岩の原ワイン 蔵見学・試飲
14:15	上越市出発
20:30	北名古屋市到着・解散

3日目は、【調理実習型体験】を行う。前回のモニターツアーでは、正善寺工房で上越野菜の調理体験を行ったが、正善寺工房では15名程度しか調理をすることができない。そこで、30名以上の方が調理できる施設として、妙高市にある都市農村交流施設を使用する。この施設は、40名程度の収容が可能であること、宿泊施設がある赤倉温泉からも近いため移動に時間が掛からないという利点がある。【調理実習型体験】でのメニューについては、今後調理指導をしていただく梅田みどり氏と検討してゆく予定である。

5. おわりに

今回のブラッシュアップ案については、9月に行われたモニターツアー参加者からの意見と、実施担当者の振り返りによるツアーの問題点を反映しながら検討を行った。また、内容や時間配分については、健康改善・リフレッシュコースの売りである【運動体験】【温泉ソムリエ講座】【調理体験】の3つが、より効果的に実施できるよう再検討した。

今回構成し直したブラッシュアップ案の実施については、外部員のみなさまをはじめ、様々な分野で活躍されているインストラクターの方々の協力が不可欠である。みなさまの協力を得ながら、ブラッシュアップされたモニターツアーを実施してゆけたらと考える。

終わりに

看護研究交流センター長 粟生田友子

私たちの教員スタッフは、杉田特任教授のもと、水原氏の貴重なご示唆を頂きながら、2010年より看護研究交流センターの特別研究部門を置き、「メディカルグリーンツーリズム」の事業展開を進めてまいりました。

当初、グリーンツーリズムに、メディカルの要素である「健康と福祉」を取り入れたとはいえ、果たして都会で生活している人たちが、上越地域の自然にどれだけ関心を寄せるのか、どのくらい人々との交流に関心を寄せるのか、健康な生活と安心できる福祉をどうこの地を巡って展開できるのか、模索の月日がありました。そもそも、あまりにツーリズムに走れば、私どもの大学でやる意味があるのだろうか・・・という考えが頭をよぎったのも事実です。

企画において難しかったことは、一つに、三つの事業案を具体的に組み立てていくこと、どのような面白いプログラムにするかがありました。二つ目に、どういった日程を組むか、いつの時期に何日くらいの日程で企画するかがありました。そして最後に予算との競合ではなかったかと思えます。けれども精力的に動けるスタッフがこの部門に参加していたことが何より、課題の多い事業を一つ一つ解決していけることへとつながったように思います。

残念ながら、実行シミュレーションの日程には、台風の到来があり、参加者の人数が少なかったことは起こりましたが、プラン自体はとてもよかったと思っています。私はスタッフの頑張りに敬意を伝えたいと思います。

今後、私たちの課題は、このプランを土台に、本当に健康と福祉の展開において意味のあるものにし、地域の中に還元することだと考えています。近隣行政組織や、住民の皆様にも、こうした事業展開に協働していただきながら、新潟県立看護大学が参与する意味を大切に、大学が、大学としての存在価値を発揮して、さらに地域に貢献できるよう力を発揮していきたい—そう思います。

関係された皆様のご協力と、メディカルグリーンツーリズムの成果をたたえるとともに、私ども看護研究交流センターは、今後もこの事業の進化を約束し、力をつくしたいと思えます。

最後に、この企画を新潟県に発案し、とても興味深い構想をもちこんで私たちの力を引き出してくださった渡邊隆学長、計画から実施に至るまで見守ってくださった佐々木稔事務局長をはじめとする看護研究交流センタースタッフの皆様、そしてこの企画に賛同し一緒に思案し最後までご協力いただいた地域の皆様に感謝申し上げます。